

大学教育・学生支援推進事業
学生支援推進プログラム及び就職支援推進プログラム
【自己点検報告書】

自己点検評価の内容

① プログラムの目的及び内容

本学では、授業やクラスアドバイザーと連携して、キャリア学習センターが進路指導を行ってきたが、昨今の社会情勢から求人数の減少、学生の就職意識が顕著となってきた。そこで、更なる学生の基礎学力の強化、就職活動に対する意欲高揚と指導力強化を目的とした社会人に必要な対人力、社会力、家庭力を身に付けた短期大学士を養うプログラムを実施する。

② 到達目標

就職率は経済情勢による要因が大きいですが、この不況下においても内定を獲得する実力、意欲を身に付けさせることを目的とする。本取組の結果として就職率向上を到達目標とする。また、学生満足度調査、基礎学力向上等の取組についての評価向上を達成目標とする。

③ プログラムの実施内容

卒業に向けての目標と学習方法を自ら目標管理シートに記入させ、その指導としてクラスアドバイザーやキャリア学習センター職員が年に数回の面談を行う。その目標に向けて個々にきめ細かな学生指導を実施することで学生満足度を向上させる。また、企業ニーズの高い基礎学力、コミュニケーション能力を養成する講座を開講し、就職力向上を目指す。

取り組みの3つの柱

◇自学自律・自己判断力強化

目標管理シートの作成と個別指導、活動の振り返りをするための個人面接の実施。

◇就職力強化

就職試験対策として就職対策・SPI対策講座の開講、キャリアカウンセラーの配置による個別面談の実施

◇指導力強化

指導者（クラスアドバイザー、キャリア学習センター職員、学習支援助手ほか全教職員）の指導力強化のための研修。

これらを体系的に実施し、質の高い相談指導をするための体制をつくり、学生満足度向上を図るとともに不況で就職が厳しい中、一人でも多くの学生が希望の進路に進めるようプログラムを展開した。

④ プログラムの成果

1 自己評価は、どのような観点で行ったか。

到達目標は、この不況下においても全員が就職、進学することを目指すという観点から就職率の向上を評価の基軸におくこととする。

また、各取組について学生アンケート等にて満足度調査を実施している。本プログラムの具体的な成果としてセミナー等へ参加した学生の満足度をその取組の評価とし、悪い点は今後の課題として改善していく。

2 到達目標に達したか。

最終目標である就職率に対して前年と比較した。平成21年度卒業生は、リーマンショック直後で先の経済状況が不透明で内定取り消しが社会問題となる中、各企業が新規採用を見合わせる状況となり、67.9%の就職率であった。一方、平成22年度卒業生は、本事業により1年生後期から基礎学力向上のための各種講座を実施し、目標管理シートによるきめ細かい個別面談によりモチベーション継続が十分に行えた。その結果、長引く不況下において19ポイントの就職率アップの86.9%となった。このことは、本事業にて行ったすべての教職員の学生指導の成果であるとともに学生の意識の向上、努力の結果であり本取組の成果が十分に現されたと自負している。

3 具体的な成果は何か。

◇自学自律・自己判断力強化の具体的成果

目標管理シートによる個別面談を通じて、入学時から学生へ就職に対して意識させた。また、自分で設定した将来の目標に対してすべき行動計画を立てさせることで自律した学習、就職活動が行えるよう学生意欲の向上が図られた。

学生の満足度を調査するため、今回の目標管理シートを中心とした取組について、22年度卒業生に対してアンケートを実施した。

「目標管理シートに目標を書くことは、自分の将来を考える上で役に立ちましたか」の質問に対し、役に立ったと答えた学生は全体の44%であった。それぞれの主な理由としては「はい」と答えた学生は「自分の将来について改めて考えさせられた。」「考えるきっかけを与えてくれた。」などがあつたが、「どちらともいえない」「いいえ」は全体の55%であり「どんな目標を書いたか忘れてしまう時もあったから。」「その時はやる気が出るけど、次の日には忘れてしまう。」などの回答があつた。この結果から、この目標管理シートを活用したことにより役に立ったと考える学生は半数以下であつたが、この取組自体が役に立たなかつたと考えているのではなく、自分自身の取組方法に問題があつたと感じている学生が多くいることが示された。

このアンケート結果から本取組が学生の将来像の形成に寄与し学生の進路選択・就職活動の継続へのモチベーションを高めたと考える。また、「目標管理シート」を行う意義を理解していない学生がいることも判明した。本事業にて学生の実態を把握することができ、その後、発展的なキャリア指導ができる体制に繋がったことは大きな成果であつた。

◇就職力強化の具体的成果

就職筆記試験に必要なSPI対策模擬試験の実施により、個々の学生の実力レベルを判断した。

模擬試験での得点・学内順位、偏差値より個々の学力を測定しこの結果から実力レ

ベルに応じた学習指導及び、就職指導を行うことができた。

また、入学時と2年進級時に模擬試験を受験することで、1年間でどれくらいの基礎学力が向上したか測定した。21年度に受験した本学1年生の偏差値は、2.2ポイント上昇した。

この結果から、基礎学力向上の取組の効果を検証することができた。

◇指導力強化の具体的成果

目標面談を実施するキャリア学習センター職員を対象に「キャリアカウンセリング基礎研修」「キャリアアセスメント活用研修」「女性のための就労問題について-雇用環境を踏まえて-」「コーチング研修」また、教職員を対象に「学生との良好な関係構築を目指すためのカウンセリング」「メンタル面で配慮すべき学生との接し方」等の研修を実施し、広くキャリアカウンセリングの知識習得に努めた。

学生の気質、学科ごとの就職先、業界に熟知した教職員がカウンセリング指導できるようになったことは本学の就職支援の大きな特徴となった。

⑤ 今後の計画

◇当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

当該プログラムで得た知見から来年度より「目標管理シート」を「ステップアップファイル」と改称して発展的なプログラムとして実施する。目標を記入したステップアップシート並びに年間を通じて行う学生個々のキャリア形成に関する記録をファイルに綴じ、常に自分が立てた目標を読み返させるような仕組みに発展させた取組を行う。また、平成23年度より改正された短期大学設置基準の「教育課程の実施及び厚生補導、短期大学内の組織間の有機的な連携」要件を満たすべくキャリア学習センターと総合教養センターの連携を強化している。

今後の計画

平成24年度の本学キャリア支援は、「目標管理シート」による面談をベースに実施してきた各取組を、授業を含めて体系化させ、夢を叶えるまでの「2年間のストーリー」として入学前からの2年後期、卒業後の支援までのプログラムを行っていく。

〈本学のキャリア教育プログラム〉

服飾芸術科、国際コミュニケーション学科において各業界、業種ごとに履修モデルをつくり入学後学生が自らモデルを選んで学べるプログラムを設置した。

服飾芸術科

国際コミュニケーション学科

○ ファッションビジネスモデル	○ エアライン・エアポートモデル
○ ビューティーモデル	○ ホテル・ツーリズム・観光モデル
○ ウエディングモデル	○ 商社・金融・医療・秘書モデル
○ クリエーションモデル	○ ITビジネスモデル
○ エンタテインメントモデル	○ 編入学・留学モデル

学生は、1年前期の「キャリアデザインA」(全員履修推奨科目)にて自分を知り、社会を知り、自分の働き方を考え、将来を決めていく。1年後期から2年前期にかけて開講する必修科目の「キャリアゼミナール」「キャリアメイク」(上記モデルごとにクラス編成)にて各

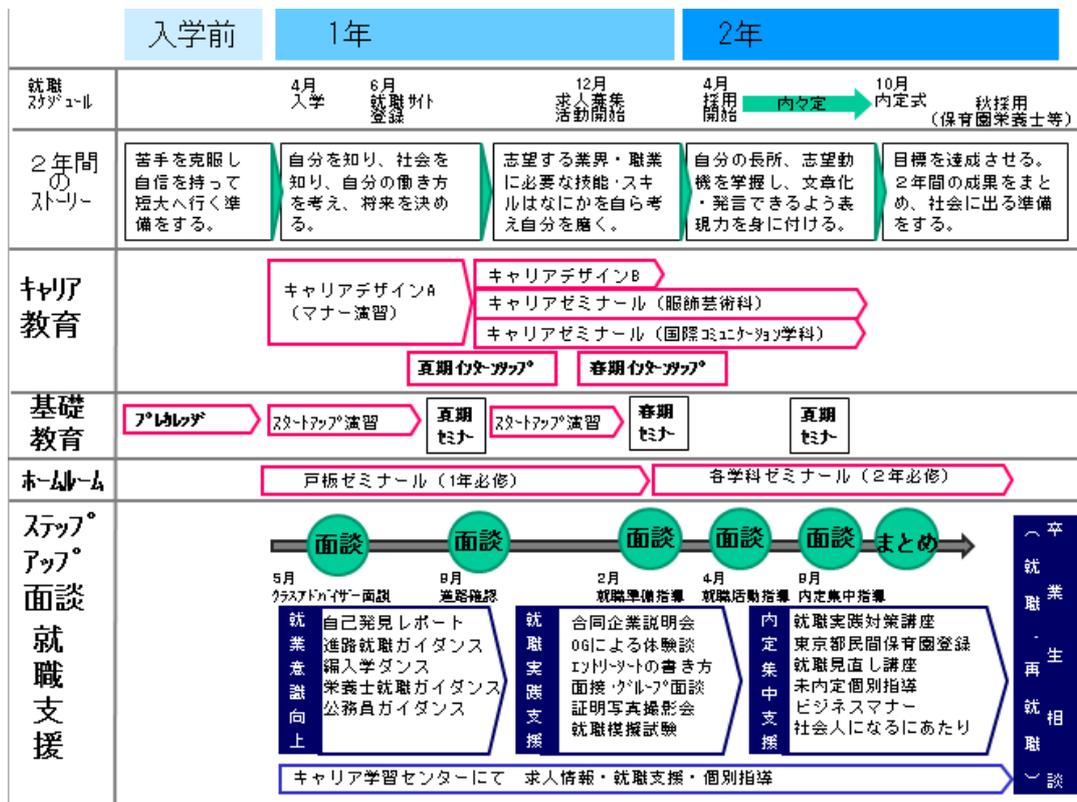
業界研究を行い、その業界に必要な技能を身に付け自分を磨いていく。さらに自己表現力を養い、2年生前期から始まる就職活動へつなげるカリキュラムとした。

短大の学生生活は2年間しかなく、入学1年後には就職活動が始まるため、入学時において2年間の学習計画、キャリア設計が必要となる。これをストーリー（ステップアップシート）になぞり、そのストーリーを実践することで夢は叶えられることを理解させるプログラムで本事業の目標管理シートで得た知見を発展させている。また、このプログラムは以下のように高校生に理解しやすく表現し、夢を持つ高校生に対してもアピールしている。

〈夢を叶えるまでの2年間のストーリー〉

- 入学前** 苦手を克服し自信を持って短大へ行く準備をする
⇒プレカレッジ（入学前教育）による基礎学力強化
- 1年前期** 自分を知り、社会を知り、自分の働き方を考え、将来を決める。
⇒自己分析、自己発見レポートなど戸板ゼミナール、キャリアデザインAにて実施
- 1年後期** 志望する業界・職業に必要な技能・スキルはなにかを自ら考え自分を磨く。
⇒キャリア科目にてOG、業界人と交流を持ち就職活動に望む準備をする。
- 2年前期** 自分の長所、志望動機を掌握し、文章化・発言できるよう表現力を身に付ける。
⇒教職員の面談記録を共有化し面接、エントリーシートの完成度をあげる。
- 2年後期** 夢を叶える（目標を達成させる）2年間の成果をまとめ、社会に出る準備をする。
⇒内定者へは社会へ出る準備、未内定者へは集中支援を行う。

これらの2年間のストーリーは就職スケジュールと連動しており、授業で行うキャリア教育、キャリア学習センターでの厚生補導と連携したキャリア支援を実践する。



就職未内定者への支援策

正社員や人気のある業界、業種にこだわることで内定を得られないままフリーターになった者に対し、正社員志望から契約社員等の求人まで視野を広げた応募、営業職など求人数の多い職種で内定を得、実績を積んでから異動、正社員登用、転職をする道を指導している。

さらに卒業生近況アンケートを実施し転職希望者、フリーターの者を把握し、就職相談を行っている。